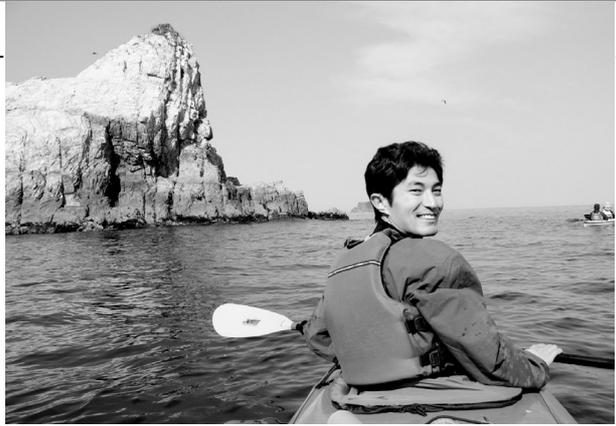


コーヒーブレイク



三陸シーカヤックツアー

会員

須田 洋平 < 59期 >

はじめに

本誌5月号の「59期リレーエッセイ」にて、シーカヤックについて紹介したところ、思わぬ反響をいただいた。そこで、今回は、私がゴールデンウィークに参加した三陸シーカヤックツアーについて報告したい。

このツアーは、私の友人で、仙台を拠点にイベントを企画している武内ヒロコさんが主催したもので、2泊3日で岩手県釜石周辺の海をカヤックで探検し、無人の白浜ビーチに上陸して遊ぶというものである。

2人艇で楽しむ風景

カヤックには1人艇と2人艇があり、2人艇では後ろの人が舵を動かして船をコントロールする。逆に、2人艇の前の人は漕ぎだけなので比較的楽である。そこで、私は、初日と2日目に2人艇の前に乗り、後ろの武内さんから漕ぎ方の特訓を受けることとなった。ホーン岬やグリーンランドといった秘境をカヤックで旅した武内さんの特訓は甘くなかったが、次第に私は漕ぎ方のコツをつかみ、三陸の風景を楽しむことができるようになった。

まず、4月末の海は透明で、深いところでも海底が見えるほどであった。また、切り立った崖のところどころに小さな滝があり、とても美しかった。そして、何と云っても圧巻だったのは、太陽の光の入り具合と透明な海のおかげで海岸のところどころにある洞窟が青く輝き、文字通り「青の洞窟」になっていたことだった。「青の洞窟」といえば、イタリアのナポリ近郊にあるものが有名であるが、わざわざイタリアまで行かなくても、三陸で本家に勝るとも劣らない「青の洞窟」を楽しむことができるのである。

マイカヤックデビュー

こうして、すっかりシーカヤックのとりこになった私は、釜石で1人艇を購入し、最終日はマイカヤックデビューを果たした。1人艇では漕ぎながら舵を取るようになるため、最初は大変であったが、慣れてくると自分の好きなように漕げるため、とても楽しくなってきた。漁港から無人の白浜ビーチまで漕ぎきると、何とも言えない達成感が湧いてきた。

最終日にもなると、ツアースタッフや他のツアーメンバーともすっかり仲良くなり、ビーチで話をしながら遊んだり、のんびりしたりして充実した時間を過ごすことができた。

カヤックを漕いで感じたこと

今回カヤックで三陸の海を漕いで、私は大自然に圧倒された。また、カヤックを漕ぐときには、波や風に逆らうのではなく、それらをうまく利用することが大事であると身体で強く感じた。

このような体験から急に話は大きくなってしまいが、人間は自然・環境といったものに逆らうことはできないのではないだろうか。人間は、環境を支配するという考え方で近代化を果たしたが、今や環境汚染という形でその尊大さに対する代償を支払っている。ここは、人間はあくまで自然の一部であり、自然・環境の知恵を借りながら、環境と共に社会を創りあげるという考え方に切り替えた方が良いのではないだろうか。

カヤックを漕ぎながら、そのような「共創造」の考え方に次の時代へのカギがあるのではとふと感じた。

(写真：武内ヒロコさん撮影)